

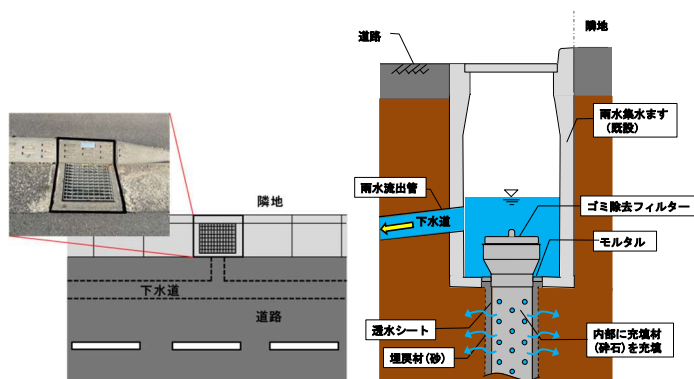
V 安全な都市空間の整備

1 都市整備における環境配慮

(1) 雨水浸透施設の設置促進

合流式下水道は、雨天時に雨水と混ざり薄まった未処理水の一部が公共用水域に排出されることから、雨水流出抑制により、公共用水域へ排出される汚濁負荷量を分流式下水道並み以下にすることが求められます。市では、「小平市合流式下水道緊急改善計画」（計画期間：平成 21（2009）年度～平成 25（2013）年度）に基づき、合流区域の道路上に雨水浸透施設（雨水浸透ます）を 346 基（浸透能力：440.7 m³/h r）設置し、汚濁負荷量の削減を図りました。雨水浸透施設の設置は、地中への浸透量を増やすことにより健全な水循環の構築に寄与するとともに、地表に水を保持することにより地球温暖化防止や浸水対策としても有効であるため、引き続き、取り組みを実施しています。

令和元（2019）年度は、20 基（浸透能力：23.4 m³/h r）設置しました。



雨水貯留施設のイメージ

【合流区域における雨水浸透ます設置の推移】

| 年度 | ～2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 |
|--------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 雨水浸透ます（基） | 346 | 364 | 383 | 403 | 423 | 443 | 463 |
| 浸透能力（m ³ /hr） | 440.7 | 461.7 | 483.9 | 507.3 | 530.7 | 554.1 | 577.5 |

※ 各数値は、平成21（2009）年度からの累計値を示す。

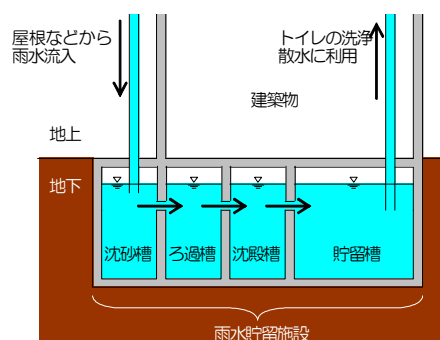
(2) 雨水貯留施設の設置促進

新規に建設する公共施設に雨水貯留施設の設置を促進し、トイレ用水や散水等の中水道として利用します。貯留した雨水については、道路等に打ち水することにより、近年のヒートアイランド現象等の地球温暖化の緩和に対する効果が期待されます。

【雨水貯留施設設置の推移】

| 年度 | 新規公共施設 | 貯留量（m ³ ） |
|------|--------------------|----------------------|
| 2012 | 小川1丁目地域センター・児童館 | 31 |
| 2014 | 小川西町保育園 | 58 |
| | 仲町公民館・図書館（なかまちテラス） | 103 |
| 2016 | 小平第十小学校増築棟 | 480 |
| 2018 | 小平市リサイクルセンター | 95 |
| | 小平第五小学校増築棟 | 82 |
| | 花小金井小学校増築棟 | 88 |
| 合計 | | 937 |

※令和元（2019）年度の実績は無し。



雨水貯留施設のイメージ

2 防災対策の推進

(1) 雨水管きょ整備による浸水対策

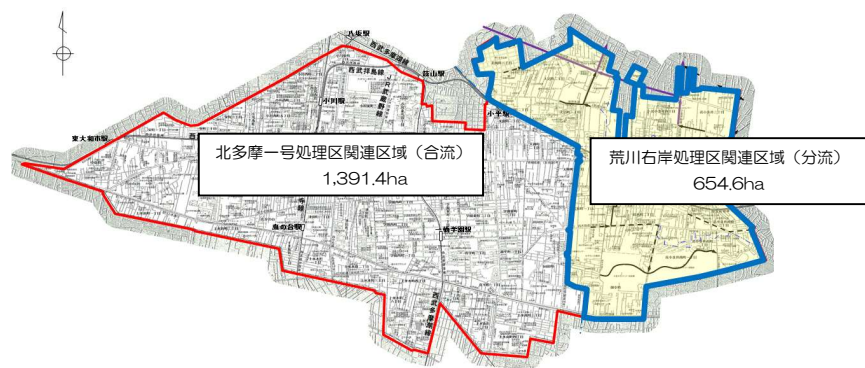
市の下水道汚水整備は、平成 2（1990）年度に全国でも 13 番目という早さで完了しています。

現在は、平成 4（1992）年度から整備を開始した分流区域（654.6 h a）の雨水管きょ整備を推進しています。近年では、下水道の整備水準である 1 時間あたり 50mm の降雨を超える局地的な大雨も発生しており、都市化の進展による雨水流出量の増加による浸水危険度の増大が懸念されるため、浸水被害を踏まえた対策を講じる必要があります。市では、平成 22（2010）年度に策定した「小平市下水道プラン」（計画期間：平成 23（2011）年度～令和 2（2020）年度）に基づき、浸水被害歴地区（124.06 h a）を重点地区として位置づけ、雨水管きょ整備を進めています。

令和元（2019）年度は、2.07 h a（0.31 h a は浸水被害歴地区）整備し、分流区域全体の整備率は 20.5% となりました。

【分流区域の雨水管きょ整備の推移】

| 年度 | 浸水被害歴地区対策済み面積 (ha) | 雨水管きょ整備率 (%) |
|-------|--------------------|--------------|
| ～2011 | 95.88 | 14.6 |
| 2012 | 101.00 | 15.6 |
| 2013 | 106.57 | 16.3 |
| 2014 | 110.60 | 17.0 |
| 2015 | 114.73 | 17.7 |
| 2016 | 117.45 | 18.3 |
| 2017 | 118.51 | 19.1 |
| 2018 | 121.26 | 20.2 |
| 2019 | 121.57 | 20.5 |



小平市公共下水道計画区域

※各数値は、平成 4（1992）年度からの累計値を示す。

(2) マンホールトイレの設置

市では、平成 25（2013）年度に策定した「小平市下水道総合地震対策計画」（計画期間：平成 26（2014）年度～平成 30（2018）年度）に基づき、被災時における衛生環境の維持を図るため、避難所へのマンホールトイレの設置を進め、平成 30（2018）年度までに対策を完了しました。



マンホールトイレ設置訓練の様子

【マンホールトイレ整備の推移】

| 年度 | 避難所 (か所) | 設置数 (基) | 備考 |
|------|----------|---------|---|
| 2014 | 4 | 40 | 六小、二中、三中、四中 |
| 2015 | 7 | 62 | 一小、四小、七小、十三小、学園東小、六中、花小金井北公民館 |
| 2016 | 8 | 69 | 二小、五小、八小、十一小、十四小、花小金井小、一中、小川公民館 |
| 2017 | 8 | 73 | 九小、十小、十二小、十五小、鈴木小、上宿小、上水中、花小金井南公民館 |
| 2018 | 11 | 70 | 三小、五中、花小金井南中、小平元気村おがわ東、市民総合体育館、仲町公民館、鈴木公民館、上宿公民館、上水南公民館、津田公民館、大沼公民館 |
| 合計 | 38 | 314 | |

※小川西町公民館への災害用マンホールの設置は、令和元（2019）年度に策定された公共施設再編基本計画の方針により設置の可能性が無くなったことから、避難所のうち設置可能な全ての施設の対策が完了。

3 下水道施設の老朽化対策

(1) 計画的な点検・調査の実施

当初に建設した管きよは40年以上が経過しており、老朽化が懸念されます。今後、老朽化管きよが増えていきますが、「下水を流す」という下水道管きよの機能を保持していくとともに、道路陥没などの事故を未然に防ぐことが必要です。老朽化対策には、多くの費用を要するため、施設の長寿命化によるライフサイクルコスト（設計・建設・維持管理）の最小化を図る必要があります。市では、平成25（2013）年度に策定した「小平市下水道長寿命化基本構想」に基づき、対策の優先度が高い地区から計画的に、点検・調査を実施していくこととしています。

同構想に基づき、平成28（2016）年度から令和2（2020）年度までに、「学園処理分区」、「喜平処理分区」及び「上水南処理分区」の一部、約105kmを対象に点検・調査を実施します。令和元（2019）年度は、28.2km実施しました。



管きよ内調査の状況

【点検・調査延長の推移】

| 年度 | 点検・調査延長 (km) | 備考 |
|------|--------------|-------------------|
| 2016 | 25.9 | 学園処理分区 |
| 2017 | 21.3 | 学園処理分区、仲町・喜平・天神幹線 |
| 2018 | 12.5 | 喜平処理分区、たかの台幹線 |
| 2019 | 28.2 | 喜平処理分区、小川・小川4号幹線 |
| 合計 | 87.9 | |

※令和3（2021）年度以降の点検・調査は、令和元（2019）年度に作成した「小平市下水道ストックマネジメント実施方針」に基づき実施します。

(2) 施設の長寿命化

市では、平成27（2015）年度に策定した「鈴木処理分区」を対象とした「小平市長寿命化事業計画」（計画期間：平成28（2016）年度から令和2（2020）年度）に基づき、事業計画対象路線の対策工事を実施することとしています。

令和元（2019）年度は、1251.2m実施しました。

【長寿命化対策延長の推移】

| 年度 | 対策延長 (m) | 備考 |
|------|----------|--------|
| 2016 | 741.2 | 鈴木処理分区 |
| 2017 | 883.9 | 鈴木処理分区 |
| 2018 | 748.1 | 鈴木処理分区 |
| 2019 | 1251.2 | 鈴木処理分区 |
| 合計 | 3624.4 | |



資料：国土交通省ホームページ
更正工法の一例